

ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤（商品名：ナリアWDG）の 梅雨期散布によるリンゴ病害防除効果

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

リンゴの主要病害である斑点落葉病，褐斑病，輪紋病，炭疽病はいずれも雨滴伝染性の病害で多雨条件においてその発生が多くなることから，梅雨期の定期的な殺菌剤散布が必要不可欠である。しかし，梅雨期には降雨により，定期的な殺菌剤散布が行えない場合もある。

新規殺菌剤であるナリアWDG はこれらの病害に高い防除効果を示し，残効も長いことから，体系防除の1剤として梅雨期に取り入れることにより，降雨によって定期散布が遅れた場合にも病害の発生リスクを軽減できることが明らかとなったので普及情報とする。

2 普及情報

- 1) ナリアWDGを体系防除剤の1剤として梅雨期の7月10日頃に散布することにより，天候不順等の理由でその後の散布間隔が延びた場合でも，主要病害である斑点落葉病，褐斑病，輪紋病，炭疽病に対し高い防除効果を示す（表1～3）。
- 2) ナリアWDGはリンゴの各種病害に対して高い防除効果を示し，果実への汚れも少なく収穫前日まで使用できることから，早生種と晩生種の混植園でも使用できる。
 - a 薬剤名：ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤（商品名：ナリアWDG）
 - a) 有効成分：ピラクロストロビン 6.8%
ボスカリド 13.6%
 - b) 製 剤；褐色水和性細粒及び微粒（顆粒水和剤）
 - c) 毒 性；普通物
 - b 使用方法（リンゴの場合）
 - a) 使用方法：2,000倍液散布（200～700リットル/10a）
 - b) 使用時期：収穫前日まで
 - c) 使用回数：3回以内
 - c 適用病害（リンゴの場合）
斑点落葉病，黒星病，褐斑病，炭疽病，輪紋病，すす点病，すす斑病

3 利活用の留意点

- 1) 散布間隔を長く設定することを推奨するものではない。
- 2) 本剤はストロビルリン系のピラクロストロビンを含有する殺菌剤である。耐性菌出現リスクを減らすために，本剤を含めストロビルリン系薬剤の使用は年2回以内とし連用はしないこと。
- 3) 炭疽病に対しては効果が不安定な事例も報告されており，多発園では注意が必要である。
- 4) 本剤は平成19年度から販売予定で，リンゴ以外にも以下の作物，病害に対して農薬登録されている。詳しい使用方法については最新の情報を確認すること。

おうとう：灰星病，炭疽病，黒斑病
な し：黒斑病，黒星病，輪紋病
も も：灰星病

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所 園芸環境部 電話 022-383-8125）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新農薬による園芸病害虫の防除 平成16年～17年度

2) 参考データ

表1 殺菌剤散布状況

散布日	試験区		
	ナリア区	フリントA区	フリントB区(慣行区)
5月16日	ブルーク水和剤(800)		
6月1日	バルノックスフロアブル(500)		
6月10日	アントラコール顆粒水和剤(500)		
6月21日	ユニックスZ水和剤(500)		
7月11日	ナリアWDG(2,000)	フリントフロアブル25(2,000)	
7月28日	-	-	ベフラン液剤25(1,500)+オーソサイド水和剤80(600)
8月3日	ベフラン液剤25(1,500)+オーソサイド水和剤80(600)		
8月17日	フジオキシラン水和剤(500)		
8月30日	ポリキャプタン水和剤(1,000)		
9月14日	アリエッティC水和剤(800)		

注1)ナリア区,フリントA区は7月28日に散布ができず散布間隔が長くなった場合を想定した試験区

注2)()内は希釈倍率

表2 葉における病害発生状況(供試品種:スターキングデリシャス)

試験区	区制	8月17日					9月30日			
		調査葉数	落葉率(%)	斑点落葉病		褐斑病	調査葉数	斑点落葉病		褐斑病
				発病葉率(%)	病斑数(/葉)	発病葉率(%)		発病葉率(%)	病斑数(/葉)	発病葉率(%)
ナリア区	平均	264	0	7.2	0.17	0.4	378	9.5	0.13	11.1
		275	0	10.5	0.20	1.5	362	20.0	0.40	21.8
		275	0	2.8	0.20	0.4	360	9.1	0.19	28.3
		271	0	6.8	0.19	0.8	367	12.9	0.24	20.4
フリントA区	平均	263	0	12.2	0.24	0.4	337	17.9	0.48	31.5
		265	0	8.7	0.10	0.8	322	18.5	0.40	31.7
		255	0	9.6	0.19	3.1	324	18.0	0.40	39.5
		261	0	10.2	0.18	1.4	328	18.1	0.43	34.2
フリントB区 (慣行区)	平均	283	0	12.1	0.26	0	347	7.1	0.12	17.3
		253	0	16.6	0.40	1.6	326	21.7	0.45	31.9
		253	0	1.6	0.03	1.2	318	13.8	0.28	29.1
		263	0	10.1	0.23	0.9	330	14.2	0.28	26.1
無散布	平均	221	27.1	83.2	5.61	26.7	-	-	-	-
		225	24.4	89.4	5.11	38.8	-	-	-	-
		178	23.6	87.5	4.99	40.4	-	-	-	-
		208	25.0	86.7	5.24	53.0	-	-	-	-

注)9月30日調査では無散布区は落葉多数のため調査不能

表3 果実における病害発生状況(供試品種:スターキングデリシャス)

試験区	10月25日(収穫時)			11月10日(貯蔵後)		
	調査果数	発病果率(%)		調査果数	発病果率(%)	
		輪紋病	炭疽病		輪紋病	炭疽病
ナリア区	145	0	0.7	81	0	2.5
フリントA区	131	0	3.1	58	8.6	8.6
フリントB区 (慣行区)	174	0	0	104	1.9	3.8

注)無処理区は落果多数のため調査不能

3) 発表論文等